

# 令和6年度大分県学力定着状況調査 結果総括

令和6年度大分県学力定着状況調査結果総括＜小学校5年＞

国語				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	(結果概況) ○教科の正答率は、知識・活用ともに県平均を下回った。 ○領域別正答率は、すべての領域で県平均を下回った。  (課題と対策) ○問題の内容別に県平均と比較すると、「文章を書く」において、4.1ポイントの差がある。  ○問題別にみると、「情報と情報との関係について理解し、話の中心が明確になるよう話の構成を考える」問題において、正答率が35.5%、無解答率が20.6%であった。 また、目標値を10ポイント以上下回ったのが説明文の読解であり、叙述を基に文章の内容を捉えることや叙述を基に段落相互の関係を捉えることに課題が見られる。今後は、全文揭示を取り入れるなど、文相互・段落相互の関係を視覚的に捉えられるような工夫も求められる。
教科の正答率	全体	64.7	67.3	64.4	話し合いの内容を聞き取る	75.2	75.9	70.0						
領域別正答率	知識	64.5	67.1	66.4	漢字を読む	89.6	91.2	86.7						
	活用	65.1	67.8	60.0	漢字を書く	53.1	56.7	60.0						
	言葉の特徴や使い方	67.1	69.4	67.5	言葉の学習	61.7	64.8	65.0						
	情報の扱い方	49.2	53.1	55.0	物語の内容を読み取る	63.1	65.0	61.7						
	我が国の言語文化	67.6	73.8	70.0	説明文の内容を読み取る	53.5	56.1	60.0						
	話すこと・聞くこと	63.8	65.2	63.0	スピーチをする	46.8	49.3	52.5						
	書くこと	69.1	73.2	57.5	文章を書く	69.1	73.2	57.5						
	読むこと	58.3	60.5	60.8										

算数				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	(結果概況) ○教科の正答率は、知識、活用ともに県平均を下回った。 ○領域別正答率は、全ての領域で県平均を下回った。  (課題と対策) ○問題の内容別に県平均と比較すると、「わり算・計算のきまり」において、4.5ポイントの差がある。  ○問題別にみると、「1目盛りの大きさが違う2つのグラフをもとに、間違いを指摘する」問題は、正答率が18.7%、無解答率が38.4%であった。複数の情報を比較し相違点を見つけ、そこからわかることを考察する力を付ける必要がある。また、「伴って変わる2つの数量の関係を式に表して、その式を使って一方の量からもう一方の量を求めることを説明する」問題は、正答率が18.0%、無解答率が22.2%であった。伴って変化する2つの数量の関係から、変化の特徴を考察し、それを言葉や数、式を使って自分の言葉で表現することを、普段の授業の中で丁寧に扱っていく必要がある。
教科の正答率	全体	66.7	69.2	63.3	億と兆・億数の表し方	68.9	71.5	66.3						
領域別正答率	知識	71.3	73.8	67.1	わり算・計算のきまり	60.7	65.2	60.0						
	活用	57.7	60.4	55.9	小数	78.9	82.0	75.0						
	数と計算	72.1	74.7	67.9	分数	77.3	77.2	68.3						
	図形	68.6	71.1	63.1	いろいろな形	70.3	72.8	66.7						
	変化と関係	58.7	61.5	59.2	面積	55.7	59.4	51.7						
	データの活用	56.8	59.0	53.8	角の大きさ	85.3	86.2	75.0						
					変わり方調べ	43.6	46.9	50.0						
					簡単な場合についての割合	73.7	76.2	68.3						
				折れ線グラフと表	56.8	59.0	53.8							

理科				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	(結果概況) ○教科の正答率は、知識、活用ともに県平均を下回った。 ○領域別正答率は、「物質・エネルギー」「生命・地球」とともに県平均を下回った。  (課題と対策) ○問題の内容別に県平均と比較すると、「電気のはたらき」において6.9ポイントの差がある。  ○問題別にみると、「水槽の外側についた水滴が、結露によってできたことを会話文にあてはまる言葉で解答する」問題は、正答率が21.5%、無解答率が24.6%であった。また、「アイスキャンディーづくりで、ジュースを容器に入れて凍らせるとキャンディーの持ち手が持ち上がる理由を解答する」問題は、正答率が27.1%、無解答率が18.6%であった。問題に適した言葉で回答する短答形式の問題の正答率が低く、無解答率が高かったことから、自分の言葉で表現することを大切に授業を、各単元で確実にやっていくことが大切である。
教科の正答率	全体	61.4	64.9	62.0	1年間の植物の成長	94.2	94.1	85.0						
領域別正答率	知識	69.0	71.8	68.8	1年間の動物のようす	69.7	72.9	75.0						
	活用	43.6	48.9	46.1	天気の様子と気温	59.2	60.9	52.5						
	物質・エネルギー	56.1	59.9	58.6	電気のはたらき	49.2	56.1	47.5						
	生命・地球	66.1	69.3	65.0	動物の体のつくりと運動	60.8	65.3	60.0						
					月と星	75.8	78.9	73.3						
					物の体積と力	56.0	55.9	52.5						
					物の体積と温度	69.8	75.5	73.3						
					雨氷のつくえと地震のようす	69.3	65.5	62.5						
				水のすがた	45.1	48.5	51.3							
				自然の中の水	41.1	51.4	50.0							
				物のあたままり方	61.6	64.7	65.0							

〈課題と対策〉

○小学校

国語においては、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考える問題、算数においては、伴って変わる2つの数量の関係を式に表し、式から値を求めることを説明する問題、理科においては、問題に適した言葉で回答する短答形式の問題の無解答率が高い。自分の考えを条件にそって記述することに課題があることから、各教科において、自分の考えを記述する学習活動を取り入れた授業改善と、定着・習熟に向けた取組の改善が必要である。

○中学校

国語においては、話の内容を捉え自分の考えをまとめる問題、数学においては、1次方程式を立式する問題、社会においては、鎌倉時代の仏教について資料をもとに説明する問題、理科においては、図表から地震のS波の速度を求める問題、英語においては、対話にそった英文を書く問題の無解答率が高い。内容理解や表現など、どの段階において生徒がつまづいているのか実態を把握することが大切である。そのうえで、自分の考えを記述する学習活動を取り入れた授業改善と、定着・習熟に向けた取組の改善が必要である。

令和6年度大分県学力定着状況調査結果総括＜中学校2年＞

国語				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	(結果概況) ○教科の正答率は、知識が県平均を上回った。 ○領域別正答率は、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」が県平均を上回った。  (課題と対策) ○問題の内容別に県平均と比較すると、「説明的な文章の内容を読み取る」において、2.8ポイントの差がある。  ○問題別にみると、「話の内容を捉え、自分の考えをまとめる」問題において、正答率が25.2%、無解答率が16.9%であった。  ○上記の問題は、スピーチのリハーサルを聞いて理解したことを、①利点と効果を明確にする、②25字以上50字以内で書く、という二つの条件下で書かせるものである。与えられた条件を満たしながら自身の考えをまとめる活動を授業の中に位置づけるなど、日常的な取組が求められる。
教科の正答率	全体	67.8	67.4	63.5	問題の内容別正答率	話し合いの内容を聞き取る	71.5	70.0	68.3	漢字を読む	93.0	92.7	88.3	
	知識	73.2	72.2	67.9		漢字を書く	77.7	71.5	66.7					
	活用	57.7	58.2	55.0		文法・語句に関する事項	61.1	62.5	63.8					
領域別正答率	言葉の特徴や使い方	73.7	72.3	70.6		説明的な文章の内容を読み取る	65.5	68.3	61.7					
	情報の扱い方	70.6	71.0	62.5		文学的な文章内容を読み取る	63.2	61.8	56.7					
	我が国の言語文化	93.1	91.9	85.0		調べたことをスピーチする	41.2	42.7	45.0					
	話すこと・聞くこと	56.3	56.4	56.7		文章を書く	70.7	70.3	58.8					
	書くこと	70.7	70.3	58.8										
読むこと	64.3	65.1	59.2											

社会				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	(結果概況) ○教科の正答率は、知識、活用ともに県平均を上回った。 ○領域別正答率は、「地理」「歴史」とともに県平均を上回った。  (課題と対策) ○問題の内容別に県平均と比較すると、「中世の日本」において、1.4ポイントの差がある。  ○問題別にみると、「気候や主な宗教の理解をもとに、宗教分布図と輸出品割合のグラフから情報を読み取り、該当する国がある州を選択する」問題は、正答率が18.5%であった。また、「鎌倉時代の新しい仏教について、資料をもとに考察し表現する」問題は、正答率が28.4%、無解答率が35.2%であった。知識の習得だけに止まらず、複数の資料を読み取り、既習内容と関連付けて思考・判断・表現する授業を実践するとともに、問題演習や単元テスト等において、条件に従って解答する記述問題に取り組みさせることが大切である。
教科の正答率	全体	52.9	51.6	50.5	問題の内容別正答率	世界の姿	62.7	59.3	53.3	世界の諸地域	48.5	47.4	48.0	
	知識	58.2	56.6	55.5		日本の姿	50.6	47.2	48.3					
	活用	42.2	41.7	40.5		世界各地の人々の生活と環境	47.8	46.9	47.5					
領域別正答率	地理	51.6	49.6	49.0		縄文時代～古墳時代	51.7	51.0	52.5					
	歴史	54.2	53.6	52.0		飛鳥時代～平安時代	65.5	61.5	58.8					
						中世の日本	49.1	50.5	47.9					

数学				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	(結果概況) ○教科の正答率は、知識、活用ともに県平均を上回った。 ○領域別正答率は、全ての領域で県平均を下回った。  (課題と対策) ○問題の内容別に県平均と比較すると、「空間図形」において、4.1ポイントの差がある。  ○問題別にみると、「与えられた文章題に対して、適切な1元1次方程式を立式する」問題は、正答率が4.6%、無解答率が25.2%であった。日常の授業において、文章だけで問題場面を捉えさせるのではなく、図や表を用いて問題を可視化することが大切である。また、「正三角形の紙をn枚並べてできる模様に必要なマグネットの個数を与えられた式で求めることができる理由を説明する」問題は、正答率が9.7%、無解答率が33.3%であった。説明する問題で、無解答率が高いことから、根拠を明らかにし、言葉や数、式を使って自分の考えを表現する活動を日常的に取り入れていく必要がある。
教科の正答率	全体	55.0	56.8	56.7	問題の内容別正答率	正の数・負の数	76.0	75.9	72.0	平面図形	69.1	72.2	67.5	
	知識	59.3	61.3	60.0		文字式	51.1	53.0	50.0					
	活用	42.0	43.6	46.9		1次方程式	56.2	56.3	62.5					
領域別正答率	数と式	61.5	62.1	61.4		比例・反比例	44.7	46.2	47.5					
	図形	56.6	60.3	58.3		空間図形	50.3	54.4	53.8					
	関数	44.7	46.2	47.5		データの分布の傾向	48.5	51.6	53.3					

理科				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	(結果概況) ○教科の正答率は、知識が県平均を上回った。 ○領域別正答率は、「生命」が県平均を上回った。  (課題と対策) ○問題の内容別に県平均と比較すると、「物質の状態変化」「地震」において、2ポイントの差がある。  ○問題別にみると、「まとめた情報から、地震のS波の速さを求める」問題は、正答率が28.7%、無解答率が20.6%であった。また、「静止している車と壁の距離を求める」問題は、正答率が13.6%、無解答率が12.9%であった。どちらとも、速さを求める問題において正答率が低く、無解答率が高かったことから、速さを求めるために必要な情報を取り出すこと、そして、取り出した情報と情報をつなげ、必要に応じて、自ら線分図や数直線など問題場面を視覚化することに慣れさせていくことが大切である。
教科の正答率	全体	58.6	57.4	59.1	問題の内容別正答率	植物の分類	74.4	73.0	70.0	火山	62.2	58.7	57.5	
	知識	67.4	65.4	65.7		動物の分類	57.9	56.5	55.0					
	活用	40.2	40.7	45.5		身の回りの物質とその性質	55.0	52.9	55.0					
領域別正答率	エネルギー	56.6	56.2	58.8		気体の性質	57.8	56.3	56.7					
	粒子	54.3	52.9	57.3		水溶液の性質	52.6	48.6	61.7					
	生命	68.9	67.5	65.0		物質の状態変化	51.9	53.9	55.0					
	地球	53.8	52.3	54.2		物質の性質	69.9	68.1	66.7					
						音の性質	35.2	36.6	45.0					
				力の性質		68.8	67.6	67.5						
				地震		45.1	47.1	50.0						

英語				佐伯市	大分県	目標値					佐伯市	大分県	目標値	(結果概況) ○教科の正答率は、知識、活用ともに県平均を上回った。 ○領域別正答率は、「聞くこと」「書くこと」で県平均を上回った。  (課題と対策) ○問題の内容別に県平均と比較すると、「さまざまな英文の読み取り」において、2.5ポイントの差がある。  ○問題別にみると、「対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書く(相手に忙しいかを尋ねる)」問題は、正答率が11.5%、無解答率が42.8%であった。対話文全体から状況を把握し、その場に応じた表現をする言語活動に慣れさせることが大切である。また、「プールの利用内容を読み、必要な情報がどの部分にあるかを把握して、適切な箇所を選ぶ」問題の正答率は25.7%、「対話文を読み、対話の流れから、問われている内容を理解する」問題は、正答率が28.3%であった。指導に当たっては、文章全体を読んで大切な部分を捉えさせる活動を促すとともに、文章から取り出した情報をもとに自分の考えを話したり書いたりする等、領域間の統合的な言語活動を工夫する必要がある。
教科の正答率	全体	52.3	51.1	51.7	問題の内容別正答率	リスニング(内容理解)	82.7	80.8	80.0	長文の読み取り	51.7	51.9	52.5	
	知識	55.0	53.3	54.1		リスニング(対話文の応答)	50.1	50.4	51.3					
	活用	46.9	46.7	46.8		リスニング(さまざまな英文の聞き取り)	59.9	58.6	57.5					
領域別正答率	聞くこと	63.1	62.3	62.2		語形・語法の知識・理解	60.3	59.9	58.8					
	読むこと	55.7	56.1	56.8		語彙の知識・理解	86.3	85.0	87.5					
	書くこと	37.7	34.1	35.0		さまざまな英文の読み取り	39.6	42.1	43.8					
						単語の並べ替えによる英作文	49.8	42.8	42.5					
						場面に応じて書く英作文	23.0	21.1	25.0					
				情報に基づいて書く英作文		34.9	31.3	30.0						
				3文以上の英作文		42.3	39.6	41.7						